

実践テーマ

「公益の心にふれてみよう」

児童の実態

- ・ 友達のために親切にできる児童は多いが、自主的に大勢のためになる活動はほとんどない。
- ・ 「公益」という言葉に触れてはいるものの、その意味や内容はよく理解していない。
- ・ 地域の幸せのために活動した先人の偉業を理解している児童は少ない。

指導のねらい

- ① 先人の偉業やボランティアサークルの活動を知り、みんなが幸せになるために行動する公益の心を理解する。
- ② みんなのためになることを考え実践する活動を通して、みんなのために行動することのよさを体験する。

活動1 『「公益の心」を学ぶ』

- ・ 庄内地方の偉人を取り上げて、その活動と功績を紹介する。
- ・ その偉人達の共通点から、「公益の心」とは何かを考える。
- ・ 身の回りにはいる「公益の心」を持って活動している方々について学ぶ。

実践の特徴①
「公益の心」への関心を高める。

活動2 『公益の心を持って活動する』

- ・ みんなの幸せにつながるようなことで自分たちにできることを話し合う。
- ・ 活動のアイデアから取り組んでみたいものを選ぶ。
- ・ 計画を練り、活動に取り組む。
- ・ 活動をふり返り、成果や課題を話し合う。

実践の特徴②
達成感・自己肯定感を高める。

活動3 『これからの自分』

- ・ これまでの活動全体をふり返り、感想を出し合う。
- ・ 一人一人の成果と課題を学級全体のものとしてまとめていく。
- ・ 6年生に向けた目標を作る。

児童の変容

- ・ 「公益の心」に対する考えを深め、みんなのことを考えた活動に高い意欲を持って取り組めた。
- ・ 多くの児童が自分の活動に満足せず、「もっとこうしたい」と話し合う姿が多く見られた。
- ・ 活動をほめられたことや自分たちの計画したものが形としてできあがっていく様子を目の当たりにできたこと、自分の活動の成果を学校に残せたことで、活動への充実感や自己肯定感の高まりが感じられた。
- ・ 学校以外の場面でも人の役に立ちたいと考えるようになった児童もいた。
- ・ 学校をきれいに大切に使いていきたいという気持ちが強くなった。

成果 (○) と課題 (■)

- 「公益の心」に対する理解や先人の偉業に対する感謝の気持ち、活動に対する責任感、充実感、達成感などを少しずつではあるが高めることができた。
- 人とのふれあいを伴う活動も期待していたが、話し合いでは出されたものの実践する児童はいなかった。活動内容を限定して取り組ませてみることも必要だったかもしれない。また、2回目の活動を決める場面では、活動の楽しさを中心に考えてしまう様子が見られた。楽しく活動することも大切ではあるが、難しいことや大変なことであってもみんなの幸せを願って活動しようとする心情をこれからも育てていきたい

1 実践テーマ 「公益の心にふれてみよう ～やってみよう！松山いいことし隊～」

2 指導のねらい

- (1) 先人の偉業や現在活躍しているボランティアサークルの活動を知り、みんなが幸せになるために行動する公益の心を理解する。
- (2) みんなのためになることを考え、実践する活動を通して、みんなのために行動することのよさを体験する。

3 これまでの児童の様子（公益の心に関する意識調査）

Q1 だれかのために、何かしてあげた経験はありますか。

A1 ある：23名（困っていたとき手伝ってあげた。落としたものを拾ってあげた。なぐさめてあげた。ものを持って行ってあげた。）

ない：0名

Q2 だれかのために、何かしてあげたとき、どんな気持ちになりましたか。

A2 喜ばれてうれしかった：7名 すっきりした：5名 気持ちよかった：4名
やってよかったと思った：4名 何も感じなかった：3名

Q3 みんなのためになる活動をした経験はありますか。

A3 ある：23名（資源回収、花の苗植） ない：0名

Q4 Q3の活動に参加した理由は何ですか。

A4 学校や子ども会の行事だから（23名）

Q5 「公益」という言葉を知っていますか。

A5 知っている：19名 知らない：4名

Q6 「公益」とは、どんな意味の言葉だと思いますか。

A6 みんなの役に立つこと（6名） みんなのために何かすること（4名）
いいことをすること（2名） みんなに平等に利益がいくこと（2名）
みんなの手助けをすること（1名） ボランティア（1名） いろんなことを学ぶこと（1名）
環境を考えること（1名） いいこと（1名） 無回答（4名）

- ・日々の学校生活の中で、特定の相手のために何かをしてあげる経験に関しては、その経験が多い子と少ない子との差が大きい。普段の様子を見ると、経験が多い子は普段から友だちとの関わりが豊富で、掃除などの活動でも活発に行っている傾向が見られる。
- ・みんなのためになる活動として、全員が学町子ども会毎に取り組んでいる資源回収と学校で毎年行う花の苗植をあげた。その他の場面で自主的に活動に参加したことのある児童はいなかった。
- ・みんなで使う学習道具の準備や後片づけの様子を見てみると、進んで働いたり友だちの作業に進んで手を出して助けたりする児童はいるが、ふざけて作業が進まない児童や作業に積極的でない児童も少なくない。
- ・児童は、4・5年生の自然体験教室で、活動の補助をするために参加していただいている東北公益文科大学生とふれ合う機会は持っているが、自然体験教室の中では公益やボランティアなどについて話を聞いたり学んだりする場面はない。
- ・本校では毎月2回、地域の先生に読み聞かせをしてもらっている。また、今年度は、11月の読書月間で八幡地区の読み聞かせサークルの方々に読み聞かせをしていただいた。

4 実践の特徴

- (1) 地域の先人の偉業や東北公益文科大学、ボランティアサークルについて取り上げながら庄内の公益の歴史に触れることで、「公益の心」に対する児童の関心を高める。
- (2) 児童が自身で考え計画したみんなのためになる活動の実践を通し、児童に活動の楽しさや達成感を味わわせ、自己肯定感を高める。

5 実践の流れ

段階	ねらい	主な学習活動	留意点(・)
つかむ (1h)	地域の偉人の功績やボランティアサークルの活動から、「公益」という考え方について知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「公益の心」って何だろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「公益の心」について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・庄内に生きた公益の偉人たちの中から特に関わりの深い人物を取り上げて、その共通点から「公益の心」を考える。 ・現在も「公益の心」が受けつがれている身近な例として、お世話になっている読み聞かせの先生方や東北公益文科大学生などを取り上げる。
ふかめる (11h)	みんなのために自分にできることを考え、計画を立てて活動できる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">松山いいことし隊PART1</div> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのためにできそうなことを考え、やってみたいことを決める。(1h) ・具体的な活動内容と必要な材料や道具を活動グループ毎に話し合う。(1h) ・いいことし隊の活動を実践する。(2h) ・活動内容を報告し合い、ふり返る。(1h) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">松山いいことし隊PART2</div> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目の活動をふり返り、2回目の活動を話し合う。(1h) ・具体的な活動内容と必要な材料や道具を活動グループ毎に話し合う。(2h) ・いいことし隊の活動を実践する。(3h) ・活動内容を報告し合い、ふり返る。(1h) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を巡ったり児童同士で自由に話し合ったりして、様々な活動案を出し合えるようにする。 ・自分が得意なこと、好きなことを生かせるような活動案も引き出す。 ・活動を決める際は、児童が希望する活動をできる限り実現できるように調整を行う。 ・活動時間を考慮した計画を立てるように指示する。 ・実践では教職員に協力を依頼しておく。 ・児童の試行錯誤を大切に、活動を支援する。 ・全員で活動した場所を巡りながら活動の報告会を開き、感想を発表し合う。 ・めあてにそって、ふり返りプリントに記入させる。 ・2回目は休み時間を挟んだ活動時間を設定し、学校のみなどとのふれあいの中でみんなにしてあげられることも実践できるようにする。 ・1回目より事前の時数を多く取り、グループ毎に十分に話し合ったり練習したりしてから、実践に移れるようにする。 ・活動中も進み具合や課題を常に話し合わせる。
ひろげる (1h)	これまでの活動をふり返り、これからの自分の生活の仕方を考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">これまでの活動、そして、これからの自分</div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に感想をもとに成果と課題をまとめ、6年生に向けた目標をつくる。(1h) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の感想をもとに初めに班で話し合ったことを発表させ、全体の成果と課題につなげていく。

6 本時の活動

(1) ねらい

地域の偉人の功績を学んだりボランティアサークルの方々の活動をふり返ったりすることで、「公益の心」について理解することができる。

(2) 活動計画

時間	主な学習活動 子どもの思い (○)	留意点 (・)
5分	1 アンケートの結果をふり返る。	・事前アンケートの結果を紹介しながら児童にお互いの考えを比べさせ、学習への関心を高める。
5分	2 本時の課題を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">「公益の心」って何だろう。</div>	・「公益」の意味を考えさせ、予想を発表させる。
15分	3 地域の偉人の功績を知る。 ①佐藤藤左衛門・藤蔵親子 ・砂防林植林に全てをかけた親子 ・17年の苦勞の末、植林に成功した ・功績を讃えて「藤蔵祭」が行われている ②本間光丘 ・全国的に有名な豪商 ・私財を出して砂防林植林を進めた ・光ヶ丘松林として現在も守られている ③佐藤靈山 ・鶴岡の住職 ・忠愛尋常小学校を設立 ・貧しい子どもたちに勉強を教え、日本初の給食を提供した。	・これまでの学習や生活との関連から、佐藤藤左衛門・藤蔵親子、本間光丘、佐藤靈山を取り上げる。 ・いのちのブックのp16～p19のコピーを配付して、学習に活用する。 ・それぞれの人物について、児童が知っていることを発表させながら、補足説明をしていく。
5分	4 3人に共通することから、「公益の心」を考える。 ○いいことをした人たち ○みんなのために行動している ○みんなに感謝されている	・自分のためではなく、みんなの幸せのために自分の全てをかけて行動していることに気づかせる。 ・「公益の心」とは「みんなの幸せのために行動しようとする心」であることを伝える。
5分	5 現在も「公益の心」を持って、活動している人がたくさんいることを知る。 ○本の読み聞かせの先生 ○東北公益文科大学生 ○地域の見守り隊の方々	・学校生活の中で多くのボランティアサークルの方々とふれ合っていることを想起させる。 ・児童から出た方々以外にも、庄内地域には公益の心を持って活動しているグループがあることをいのちのブックを活用して伝える。
7分	6 本時の授業の感想を書く。	・感想のよかった点をほめ、次時以降の学習計画を確かめることで意欲と見通しを持たせる。
3分	7 次時の取り組みを確かめる。	

7 児童の様子・変容

(1) 活動の様子

「松山いいことし隊PART1」活動内容

- ◎書庫の飾りつけ (9人)
- ◎廊下の壁の汚れ落としと窓ガラスのテープ取り (4人)
- ◎ホールとオープルームの棚の整理 (1人)
- ◎廊下の飾りつけ (2人)
- ◎玩具作り (5人)
- ◎壊れているもの直し [本・フック] (2人)

「松山いいことし隊PART2」活動内容

- ◎書庫の飾りつけ (10人)
- ◎絵本作り (3人)
- ◎廊下の壁の汚れ落とし (4人)
- ◎本の修理 (2人)
- ◎玩具作り (2人)
- ◎廊下の飾りつけ (1人)
- ◎棚の飾りつけ (1人)



活動前のグループ毎の話し合い



活動「棚の整理」



活動「書庫の飾りつけ」



活動「玩具作り」



活動「廊下の壁の汚れ落としと窓ガラスのテープ取り」



活動「本の修理」

(2) 児童の感想

- ・この取り組みで少しだけですが「公益」を学べたような気がしています。作業の後、書庫を見返してみるととてもきれいで、「ぼくだけじゃなくて他の人もがんばったんだな。」と思います。公益は進んではまだ難しいけれど、やってみると楽しく、気持ちよくなります。(書庫の飾りつけ：男子)
- ・自分では、今回の活動にまあまあ満足しています。これからも、いろいろなことをやってみて、みんなからもっと喜んでもらって、人の役に立ったなと思えるようにしていきたいです。(玩具作り：女子)
- ・今回は汚れがなかなか落ちなくて大変でした。でも汚れが落ちるとやっぱりすっきりします。壁もピカピカになったし、心もピカピカになった気がします。やっているときに他の学年の人が「がんばって。」と言ってくれたのでもっとピカピカにしようと思います。(廊下の壁の汚れ落とし：女子)

(3) 児童の変容

【活動後のふりかえりカードから】

「公益の心」とはどんな心だと思いますか？
人のために役に立とうとする心 みんなのために何かすること みんなに喜んでもらうこと 他の人のために精一杯がんばる気持ち 優しい心 みんなのためにつかう心
みんなのためになる活動になったと思いますか。
とてもそう思う：13人 少しはそう思う：10人 あまり思わない：0人
松山いいことし隊の活動に満足していますか？
とても満足している：9人 少しは満足している：13人 満足していない：1人

- ・「公益の心」に対する考えを深め、みんなのことを考えた活動に高い意欲を持って取り組めた。
- ・多くの児童が自分の活動に満足せず、「もっとこうしたい」と話し合う姿が多く見られた。
- ・活動をほめられたことや自分たちの計画したものが形としてできあがっていく様子を目の当たりにできたこと、自分の活動の成果を学校に残せたことで、活動への充実感や自己肯定感の高まりが感じられた。
- ・学校以外の場面でも人の役に立ちたいと考えるようになった児童もいた。
- ・学校をきれいに大切に使いていきたいという気持ちが強くなった。

8 成果と課題

○成果

- ・児童は「公益の心」の意味を理解した上で、自分にできる、みんなのためになる活動をそれぞれに実践することができた。
- ・活動後に、児童に対して教職員や他学年の児童からの称賛の言葉をいただいた。また、自分たちが作った玩具で低学年の児童が楽しそうに遊ぶ姿も見られた。学級内でも互いの活動を認め合ったが、学級外からの言葉というのは児童の大変な励みになり、活動の意欲が高まった。
- ・みんなのために活動したことで、活動に対する責任や使命感を感じる事ができた児童もいた。この気持ちを普段の委員会活動や係活動にも反映させていきたい。

◆課題

- ・2回目の活動では、他学年の児童とのふれあいも絡めた活動を考えていたが、1回目の活動の続きを希望する児童がほとんどで、ねらい通りにはならなかった。また、みんなのためにという点ではなく楽しさの点から活動を選んでいる児童も見られた。活動を決める際に、全校のみんなのためにどんな気持ちで活動するのかを十分に考えさせたつもりでいたが、十分ではなかったようだ。
- ・活動の範囲を校外にも広げたかったが、諸事情により校内だけのものにした。実施時期や時数を適切にすることで活動は校外にも広がり、地域とのつながりも出てくると思う。

7 本実践のポイント

- ねらいに沿った児童の自由な発想に基づいて活動を展開することで、児童は高い意欲を持って活動を続ける。また、活動の過程で課題が生じたり進捗状況を確認したりしなければならないため、必然的に児童同士の話し合いは活発になる。
- 「公益の心」を学習の基盤としているので、自然と自分の活動への責任感が生まれる。また、周りの人から認められる場面も多く、自己肯定感が高まる事が期待できる。